

GPS 安全性要約書

アンヒトール 55AB

この製品安全性要約書は、一般社会へ化学物質の用途・用法、安全性情報の概要を提供するものです。この文章は、サプライヤーから提供される、用途毎に推奨される詳細な安全措置について記載されている安全データシート (Safety Data Sheet) に代わる文書として作成されたものではありません。また、製造者から提供される、この物質を含む消費者製品の使用説明書や警告に代わるものとして作成されたものでもありません。記載内容は、現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいておりましたが、いかなる保証をなすものでもありません。

1. 物質の特定名

商品名: アンヒトール 55AB
化学名: Cocamide propyl betaine (主成分)
CAS 番号: 61789-40-0 (主成分)

2. 使用・用途と適用

アンヒトール 55AB は両性界面活性剤です。増泡剤として医薬部外品、化粧品に使用されています。

3. 物理化学的特性

アンヒトール 55AB に物理化学的危険性は認められません。

特性	値・性状
物理的状態	液体
色	淡黄色透明
臭い	わずかな特異臭
pH	7 (1%水溶液)
密度	1.058 g/mL(25°C) 1.056 g/mL(30°C) 1.051 g/mL(40°C)
凝固点	<20 °C
沸点	情報なし
引火点	情報なし

可燃性	情報なし
爆発性	情報なし
自然発火温度	情報なし
蒸気圧	情報なし
水への溶解性	溶解する（易溶）
オクタノール／水分配係数(Log K _{ow})	情報なし
粘度（粘性率）	13 mPa・s（25℃） 12.2 mPa・s（30℃） 11 mPa・s（40℃）

4. ヒト健康影響

消費者: 危険な濃度レベルでの暴露はありません。
 作業員: 繰り返し暴露による毒性は示さないと考えられます。

アセスメント項目	結果
急性毒性：経口/経皮	實際上、経口/経皮暴露後の毒性はありません。単回暴露後に、特定の臓器に対して毒性を示すこともありません。
刺激性/腐食性：皮膚/眼	入手可能なデータから、皮膚に対する刺激性/腐食性は無いと考えられます。 未希釈物は眼に対する重篤な損傷の原因になります。
感作性	入手可能なデータから、皮膚感作性はないと考えられます。
繰り返し暴露による毒性	實際上、長期または繰り返しの経口暴露により毒性を示さないと考えられます。
遺伝毒性	入手可能なデータから、遺伝毒性はないと考えられます。
発がん性	入手可能なデータから、発がん性はないと考えられます。
生殖発生毒性	入手可能なデータから、生殖発生毒性はないと考えられます。

5. 環境影響

魚類、水生無脊椎動物、藻類に対する試験結果から、アンヒトール 55ABは水生生物に対する影響がありますが、容易に生分解され、環境中には残留しません。また、食物連鎖における濃縮もないことから実環境における影響は小さいと考えられます。

アセスメント項目	結果
水生毒性	環境中での高濃度暴露が生じた場合、水生生物に対する毒性があります。
生分解性	容易に生分解されます。
PBT / vPvB	PBT/vPvBには該当しません。

6. 暴露

消費者

消費者は化粧品等の使用によりアンヒトール 55ABに接触する可能性があります。これらの用途におけるアンヒトール 55ABの濃度は有害な影響が懸念されるレベル以下です。推奨される用

途で使用される場合、常に使用前に製品情報を参照し、ラベルや能書に記載されている使用上の注意に従って下さい。

作業者

アンヒトール 55ABの生産設備や多くの取り扱い設備では、この物質による暴露が発生します。また、この物質を取り扱うメンテナンス、サンプリング、テストや他の作業においても暴露される場合があります。教育を受け訓練された作業者のみが、（希釈されていない）この物質を取扱います。各製造設備では、不必要な暴露を避けるためにゴーグルや手袋などの安全防具の常備と共に、作業者向けの訓練プログラムや適切な作業手順を定めています。安全シャワーや眼を洗う設備が設置されています。作業者は**Safety Data Sheet**に記載されている応急措置に従う訓練を受けることが求められます。

環境

この物質は広範囲にわたり使用されているため、消費者用製品の使用に伴う排出に加え、製造、準備・取扱い・貯蔵、使用など工業的に取り扱う場所からも排水処理施設へ排出されます。しかしながら、この物質は容易に生分解されるため、排水処理施設において効率的に取り除かれます。排水中にわずかに残った場合でも、表層水中で生分解を受け、迅速に取り除かれます。従って、長期に渡る水生生物への暴露は起こり得ないと考えられます。さらにこの物質は食物連鎖による濃縮はなく、環境経由のヒトへの暴露も懸念されません。

7. 推奨リスク管理措置

化学物質を使用する際には、適切な換気がなされていることを確認して下さい。手や皮膚の保護のために適切な耐化学薬品手袋を常に着用し、眼の保護具を装着して下さい。化学物質の取扱い、処理、保管をする場所では、飲食・喫煙をしないで下さい。化学物質に接触した後は、手や皮膚を洗って下さい。皮膚（または髪）に付着した場合、汚染された衣類を脱ぎ、多量の水と石鹼で洗って下さい。眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗い、次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けて下さい。皮膚刺激または眼刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けて下さい。

この物質を含む排水は、この物質を除去するため、排水処理設備を通さなければなりません。大気中への放出は予想されないため特別な措置は必要ないと考えます。

8. 法規制情報/分類・ラベル情報

GHSに基づき、化学物質はその物理特性、ヒト健康、環境への危険性に従って分類されています。この危険性の情報は、工業製品では、特定のラベルと**Safety Data Sheet**によって伝達されています。GHSでは化学物質の暴露が想定される対象者（作業者、消費者、輸送業者、緊急時の対応者）が、扱う化学物質の危険性をより理解ができるように努めています。

分類・ラベル情報

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：区分1	H318：重篤な眼の損傷
水生環境有害性（急性）：区分2	H401：水生生物に毒性
水性環境有害性（慢性）：区分3	H412：長期継続的影響により水生生物に有害



注意喚起語：危険

製造、販売、輸送、使用、廃棄に関わる法令は、国や地域によって異なります。詳細についてはサプライヤーから提供されるSafety Data Sheetを参照して下さい。

9. 結論

アンヒトール 55ABは、環境中での高濃度暴露が生じた場合、水生生物に対する毒性があります。また、水生生物に長期継続的な影響があります。しかし容易に生分解されるため、環境生物に有害な影響を及ぼす懸念はないと考えられます。PBT/vPvBの評価結果から、この物質はPBT/vPvBには該当していません。この物質そのものを取り扱う作業者は、標準的な安全管理手法に従い、Safety Data Sheetを参照する必要があります。消費者はこの物質原体そのものには接触せず、希釈された状態で使用されることから、ヒト健康に有害な影響を及ぼす懸念はないと考えられます。

10. 連絡先

この物質・安全性要約書に関する、詳しい情報については以下にお尋ね下さい：

会社名、部署	花王株式会社、ケミカル事業部門
電話番号	03-5630-7601
ファックス番号	03-5630-7964
電子メール	chemical@kao.co.jp

追加・関連情報に関しては、一般社団法人日本化学工業協会が提供する「化学物質リスク評価支援ポータルサイト」をご覧ください。

(<https://www.jcia-bigdr.jp/jcia-bigdr/top>)

11. 用語集

急性毒性	単回暴露による有害な影響
感作性	アレルギー誘発性
遺伝毒性	遺伝子・染色体に変異をもたらす影響
発がん性	がんを引き起こす作用影響
生殖発生毒性	催奇形性、胚毒性及び、繁殖性への有害な影響
生分解性	環境における物質の生物学的分解性
PBT (Persistent, Bioaccumulative and Toxic)	残留性・蓄積性・毒性を有する物質
vPvB (Very Persistent and Very Bioaccumulative)	高残留性・高蓄積性を有する物質
GHS	化学品の分類と表示に関する国際調和

12. 発行日

2021年12月10日